



丸山洋平の 自己紹介と活動紹介

新宿区自治フォーラム2026

2026年3月14日（土）@ZOOM

自己紹介：丸山洋平

- 所属：札幌市立大学デザイン学部 共通教育
- 専門分野：地域人口学、家族社会学、人文地理学
 - 主に「人口」と「家族」に関する研究をしています。
 - 公的データ（地域人口）の分析、定性調査データ（単身者の生活実態）の分析の両方を行っています。



新宿自治創造研究所を離れて以降

3



● 新宿自治創造研究所 非常勤研究員
(2012～2014年度)

● 福井県立大学地域経済研究所 特命講師
(2015～17年度)

● 札幌市立大学デザイン学部 准教授
(2018年度～)

気になるニュースは
ここで検索してね!



ニュース記事を探す >

【北海道の未来どうなる?】2024年人...北海道の人口のわずか0.5%_日 少子化対策の効果見えず“少子化加

社会

くらし・医療

2025年6月8日 06:00

友だち追

Q なぜ北海道は出生率低い?

- 所得が低い・未婚率が高い
- 人口が集中している札幌が低い

Q 北海道の未来は?

出生率1というのは一歳2人から子ども1人
新世代より人口半分 → 加齢的に入人口減少する

サービス低下 物価の上昇 社会保障の維持困難

北海道の未来はどうなるのか

男女比のアンバランスな地域は未婚率が高
市は女性比率が高いという事もある。

Q 北海道の未来はどうなるのか?



東名阪の3大都市圏に次ぐ人口規模の札幌、仙台、広島、福岡は「札仙広福」とも呼ばれる。人口が流出して東京に一極集中するなか、地域の核となる4都市はどう生き残っていくのか。

女性羽ばたく余地がある

サービス維持 周辺地域と



1977年生まれ。2001年にリクルート入社。16年に広島銀行に入行。人事総務を担当し、24年から現職。趣味は山登り。

木下 麻子さん

ひろきんHPO
サステナビリティ 経営部長

広島県では転入者が転入者を上回る転出超過が、他の中核都市よりも高いレベルで続いています。県と広島市では転出超過問題をいかに解消するか、というところが顕著で話題になっています。

広島は全国でも大学進学率が高く、中学、高校での教育も熱心です。進学を志した人が東京の大学に進学したり大都市圏で働いたりするなど、自分の力を大きく広げる市場で試したいと思う気持ちも否定できません。働き手が戻ってこない、入ってこないことが問題で、大阪周辺に流れてしまっているという実情はあるでしょう。とはいえ、やはり経済面の課題は大きい。広島企業は、若者や女性にとって魅力が

十分ではありません。私は9年前、広島にいる夫の家族が体調を崩したことで、東京の会社を退職して広島で転職先を探したのですが、年功序列型の賃金体系で働きを置く会社が少なく、若者にとって魅力が少なく、若者を知りませんでした。さらに性別役割分業も色濃く残っています。だから転出者も多く、20代から30代半ばの女性が多いのではないのでしょうか。

転職当時、広島銀行の女性社員は本業でも役員者以外に転職で、主要な会議にも参加していません。これは女子力、と思いましたが、人事総務の担当でしたが、まず総務は窓口業務の行儀は必須として、他の女性社員については自由でした。

次手を付けたのは働き方です。時間外労働の削減と育児中の女性のフルタイム化を同時に進め、男女の均質化に取り組みしています。この点は道はずです。共働き家庭でも、女性には家事育児を男性よりも多く負担しなくてはならないという思い込みがまだあります。別居の夫が理解してくれない」という声もありました。県内の他企業、地域の企業まで変わらないうえ、解いていません。

私は転職後に大きな成長を与えられ、非常にやりがいを感じています。東京ではやりたい仕事の競争率が低く、そのポジションがない。どんなに優秀な人材にいてもレバレッジが低い(過渡競争)なのです。東京一極集中の問題は、有能な人材が埋もれてしまっていることです。転出超過は、日本の国力を上げるために、地方都市への移住を推進し、国単位の適材適所を推進すべきです。



1970年生まれ。大阪大学教授。主な研究領域は行政学、地方自治。著書に「政令指定都市論」。共著に「地方自治論」。

北村 巨さん

行政学者

札幌、仙台、広島、福岡の4都市は「支那経済」の都市でした。高度経済成長期、東京や大阪に本社がある企業が全国展開する際、拠点として支店や工場を置いた。当時はその交通網や情報通信技術はいのちを維持でき、ある程度の権限を与えられた。そこに行けば雇用があり、定住できる。医療など高度なサービスも受けられる。全国の競争率を引き、その地方の競争率を都市でした。地方の人口流出を抑えることも出来た。結果として、地方の競争率が高まりました。

福岡は後背地が九州全体であり、また若者の流入が激しい状況です。そこに東京などの大都会では補填し

流出と集中問題は地続き



丸山 洋平さん

地域人口学者

札幌市は、転入者が転入者を上回る転入超過状態にあります。道内から、大学進学や就職目的など若年層だけでは、医療や介護を求め高齢者層まで集まっています。北海道全体では、道外への転出超過の状況なので、札幌に道内人口が一極集中していることがわかります。ほかの県所在地も似たような傾向にあるのではないのでしょうか。

札幌に移り住んだ人々が家族を作り、札幌生まれの「札幌二世」「札幌三世」が育っています。札幌圏外との地縁は薄くなってきており、リターンなどもなくなっています。札幌への集中はこれからも止まらない、札幌圏外の市町村はますます弱っていくのみならず、札幌圏内でも、札幌で年別で見ると、札幌で20代前半が減少、道外転出を食い止めることが出来なくなっています。

ある程度維持しています。ただ、支店経済の競争率も多いため、競争率も弱ってきています。札幌などの転出先の最終地点が東京です。地方出身者を受け入れることで、東京は新たな課題を抱えることになりました。

「ミドル層」の単身者が増えています。ミドル層の身辺率は、1980年代で全国4.7%、東京都部局9.4%でしたが、2020年には全国15.8%、東京都部局27.5%にまで増えています。

地方圏から大都市圏へ移動した人は、そのまま入居が求められ、地方からの転出超過は、大都市も地縁の問題なのです。

1983年生まれ。札幌市立大学教授。専門は人文地理学。家族社会学など。共著に「東京ミドル層の離散」。

そこで注意が必要なのは、東京に移住する人の社会階級はどうかであるということです。大学進学して上層の高度層、高キャリア層の人は、特に女性に結婚で失う生活費が多いので、結婚を遅らせることができます。半面、資産形成をしており、将来の心配は少ない。

一方、低キャリアで地方から離散した人は、非正規雇用で不安定な経済状況におかれ、結婚できない人もいます。そんな人々が結婚期を迎えれば、何かのきっかけでたやすく生活困難に移行する。行政コストが膨らむうえ、離水の生活を送る人々が集住する地域は、雰囲気が変わってしまう恐れもあります。

東京はこのような潜在的な課題に対していかに対応が求められます。地方からの転出超過は、大都市も地縁の問題なのです。

課題

人口減少に転じた札幌
重み増す「市民への発信力」

16日

HBC
NEWS

人口

人口減少期に入った札幌市 就任10年目の秋三市広市長に単独インタビュー 課題の住民負担やサービス維持 求められる丁寧な説明

新宿自治創造研究所での研究活動

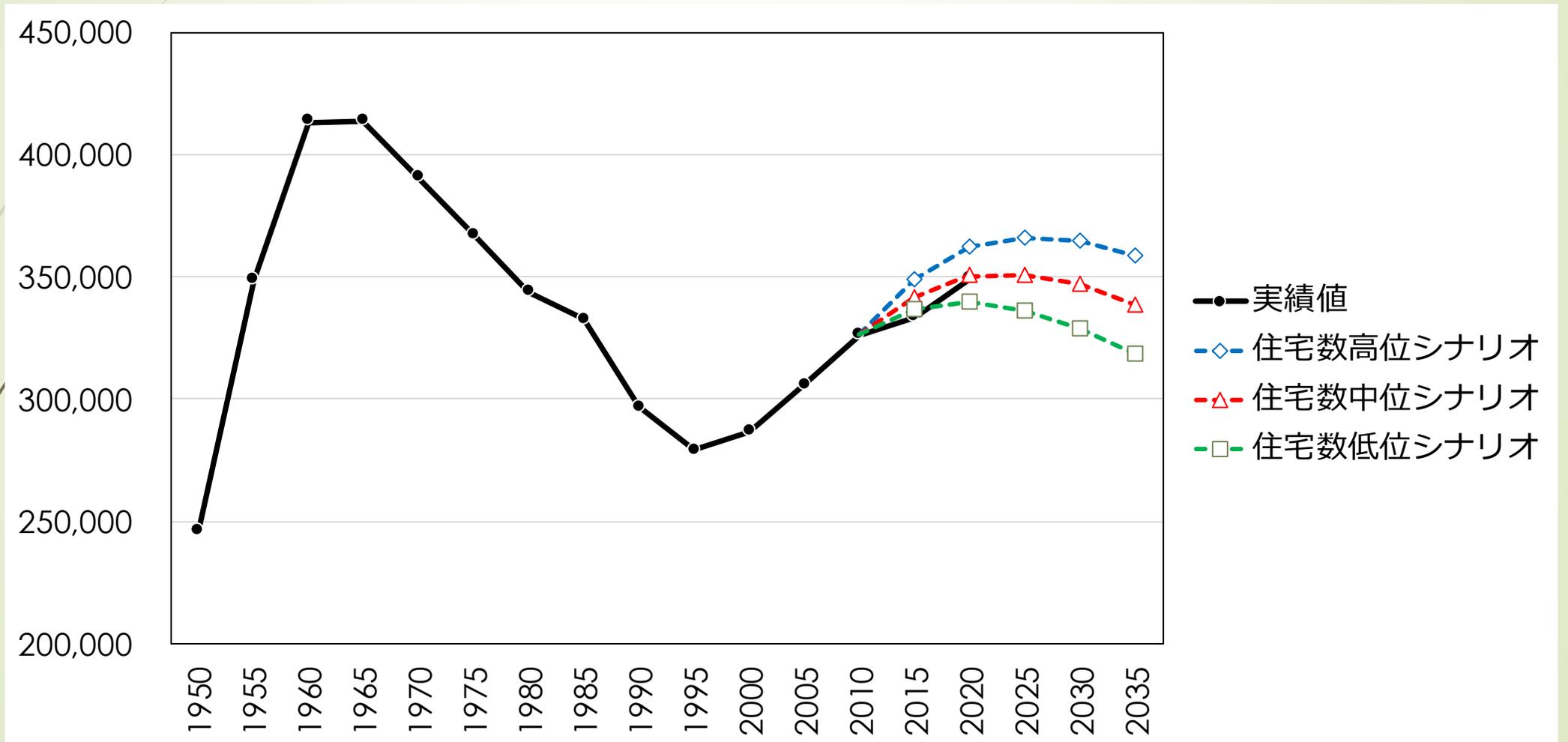
▶ 将来人口・世帯推計

- 将来の住宅供給を考慮した地域人口推計手法「住宅－人口モデル」の開発と実装
 - 新宿区、特別出張所地域別の人口推計
- 住民基本台帳人口に基づく将来人口推計

▶ 単身者の生活実態調査

- 壮年期・高齢期の生活像（生活不安層の存在）
- 行政サービスの対象外の存在

2010年国勢調査推計の検証



資料：国勢調査、研究所レポート2012

特別区長会調査研究機構での取組

令和2年度 調査研究報告書

将来人口推計のあり方

令和元年度 調査研究報告書

特別区における
小地域人口・世帯分析及び
壮年期単身者の現状と課題

令和2年度 調査研究報告書

特別区における
小地域人口・世帯分析及び
壮年期単身者の現状と課題

Middle-Aged Singles and the Future of Tokyo
「ひとり」社会のゆくえ

東京ミドル期のシングルズの衝撃

宮本みち子・大江守之「編著」
丸山洋平・松本奈何・酒井計史「著」

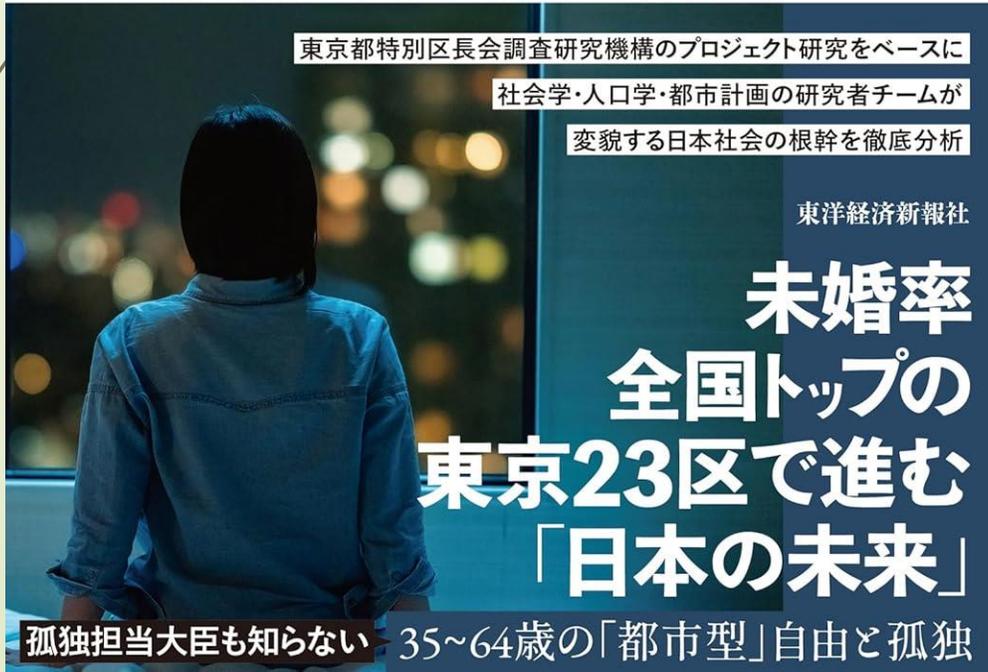
ミドル期シングルは、行政サービスの観点からみて、属性的に問題があるとは考えられていない人々でした。その見識は妥当なのでしょうか？

ミドル期シングルは、すでに2020年に東京区部ミドル期人口の3割を占めており、それ以後も上昇が続き、中でも前期ミドル期シングルは相対的に増加が大きいと見通されています。

納税者としての比重も相応に大きいミドル期シングルを、まず政策対象として認識するところから始める必要があります。

また、これらの人々の多くがやがて高齢期シングルになり、高齢者政策の対象となる時代が近いことを認識する必要があります。

- 「終章」より



東京都特別区長会調査研究機構のプロジェクト研究をベースに
社会学・人口学・都市計画の研究者チームが
変貌する日本社会の根幹を徹底分析

東洋経済新報社

未婚率 全国トップの 東京23区が進む 「日本の未来」

孤独担当大臣も知らない 35~64歳の「都市型」自由と孤独



最近の研究

- ▶ 将来人口推計

 - 子ども女性比の分母年齢設定と推計精度との関係

 - 自治体職員のアイデアによる将来人口推計ツール作成

- ▶ 人口移動

 - 札幌市をめぐる人口移動の標準化

 - 人口移動経験と家族観・結婚観との関係

 - 人口ダム機能の評価方法

- ▶ 学際的な研究等

 - 地域指標の客観的解釈

 - 超高齢化団地におけるAIオンデマンドタクシーの社会実験

リベラルアーツ教育との関わり

▶ SCUのリベラルアーツ教育のポリシー

以下の4つの態度を涵養し、学生の「**学ぼうとする態度**」を引き出す教育を本学のリベラルアーツ教育と位置付けます。

- 1 知識をただ蓄えるのではなく、問題解決に向けて柔軟かつ的確に活用しようとする態度
- 2 未知の体験に対して驚きや違和感を受け止め、深い学びへと昇華しようとする態度
- 3 既成の価値観に依存せず、自ら問いを立て、独自の視点で論理を構築しようとする態度
- 4 他分野に知を開き、異なる視点や知見を積極的に吸収し、連携を図ろうとする態度

▶ 本学は学生が「学ぼうとする態度」を大学在学中のみならず、**生涯にわたり持ち続けることにより自律的に成長し続ける**ことを願います。本ポリシーでは「学ぼうとする態度」に必要な要素と、それを育むために本学が提供する学修環境を示し、これらを教育活動の原則として持つこととします。